



安積高校 全生徒・全教員での「SS探究Ⅰ」「SS探究Ⅱ」

本校では、「総合的な探究の時間」の代替として、1年次においては「SS探究Ⅰ」を、2・3年次においては「SS探究Ⅱ」を実施しています。

「SS探究Ⅰ」では地域課題の解決や新たな価値の創出を目指す課題研究【地域創生探究】に取り組んでいます。138期の修学旅行訪問予定先の一つ富山県富山市には、SSH指定校である富山県立富山中部高等学校があります。富山中部さんとは、すでに科学地理オリンピック合同学習会などで交流活動がはじまっていますが、先日本校1年7組全員が富山中部高校の1年生とオンラインでセッションを行いました。交流活動は今後1年次全体に広がっていくと思いますが、「SS探究Ⅰ」での学びをここで終わらせず、次年度以降の「SS探究Ⅱ」につなげていってほしいと思います。

SS探究Ⅰ「音楽は人を繋げられるのか」

私たちは郡山の音楽史を調べ得ている中で、つなげる力に注目した。そこで音楽にとって大切な「聴く」ということが困難な聴覚障がい者と健常者とは、音楽で繋がるのは難しいのではないかと考え、福島県立聴覚支援学校でお話を伺ってきた。

取材したところによると、聴覚支援学校でも音楽の授業や合奏部の活動が盛んに行われているようだ。しかし、やはり聴覚障がい者にとって音楽は難しく、苦手意識を持つ生徒達もいる。そこで聴覚支援の先生は演奏箇所に楽譜上で色をつけるデジタル教科書や、音を周波数で表すスペクトログラム等、聴覚以外の手段も用いて授業を行なっているようだ。合奏でも指でカウントする指揮、大太鼓の振動による音の大きさの伝達など、多くの工夫がなされている。それによって音楽に苦手意識のあった生徒も音楽を楽しみ、それを通じて心を通わせるようになっていったようだ。

この結果から私たちは、音楽には障がいの有無という壁をも越えるほどの力があることを学んだ。

1年1組 Kさん（郡山五中）

SS探究Ⅰ「クラス発表会を振り返って」

1月17日に1年間の探究活動をまとめたポスターを披露する、「クラス発表会」を行いました。

あまり経験がないポスターセッション形式でしたが、先輩方の発表をお手本として、分かりやすく研究成果を伝えることを心がけました。発表側だけでなく、聞き手側も、質疑応答の時間の中で積極的に質問をし、クラスの班の研究の理解をより深めようとしている姿が印象的でした。また、クラス発表会後の反省では、発表時の声量やアイコンタクトなど、聞き手に伝えるための工夫に課題があるといった意見が多く挙げられました。

学年内で最も票を集めた1年2組と5組の班は、2月25日に予定されている「安積高校SSH生徒研究発表会」で代表としてポスター発表をします。今回のクラス発表会は、メンバーと協力して学びの成果を表現する、とてもいい経験となりました。今回の成果を、来年度のSS探究Ⅱにも生かしていきたいと思います。

1年3組 Sさん（田島中）

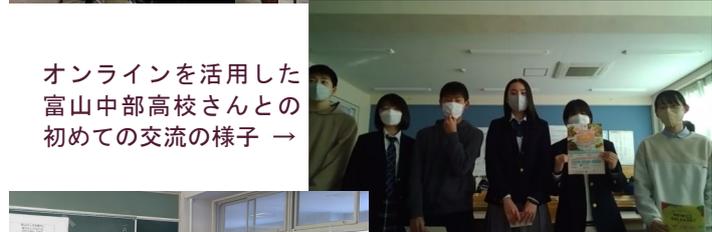
SS探究Ⅰ「フィールドワーク」

10月20日に、1年次全体を11のグループにわけ、県内各地に赴いてのフィールドワークが行われました。各班の探究内容に合ったフィールドワーク先を選び、それぞれが福島について学びを深めることが出来ました。行き先を自ら決めることで全員が積極的にフィールドワーク先での活動に取り組めたと思います。また、他クラスの人との交流をすることもでき、自分たちのコミュニティを広げることができました。フィールドワークでは地域の人々が支え合って生きていることや震災から確実に復興しつつあることを感じられました。高校生となった今、自分たちの地域を少しでも支えることができるようにこの探究活動を通して発信していきたいです。福島を担っていく若者として福島をより良くするために今回学んだことを活かして、これからのポスター制作や2年次になった際の探究活動を頑張っていきたいです。

1年2組 Oさん（郡山五中）



←福島県立聴覚支援学校でのフィールドワークの様子



オンラインを活用した富山中部高校さんとの初めての交流の様子 →



←SS探究Ⅰでのクラス発表会の様子

裏面につづく

「SS探究Ⅱ」では【グローバル探究】と銘打ち、SDGsの17目標の項目に関わらせ、身近な課題を科学的に探究することを通し、その知見をグローバルな課題解決につなげていくことを目標にしています。2年次は発表、3年次は論文作成となります。また、今年度から安積高校SSHシニアサポートネットワークが稼働し、シニアサポーターとして本校卒業生にご協力いただきながらの探究活動が進められています。



SS探究Ⅱ「原子力の安全利用」

皆さんこんにちは、今回はSS探究ⅡでのEゼミ1班の取り組みについてご紹介させていただきます。私達の班では、「原子力発電所を安全に利用するためには」というテーマの元、日々研究を進めています。12年前の東京電力福島第一原子力発電所事故では、設備面の問題、組織的な問題など様々な問題が積み重なり、原子力災害を引き起こし、地域に甚大な被害をもたらすことになってしまいました。



しかし原子力発電は二酸化炭素を排出せず、低コストで大量の電力を生み出すことができます。そこで「どうすれば安全な原発運転ができるか」「緊急時にはどのような対応を取るべきか」といったことを、シニアサポーターの皆様からの助言を頂戴しつつ、設備面、組織面などの多方面から分析し、考察しています。

原子力問題は様々な問題が絡み合う複雑なものですが、少しでも私達なりの解を導き出せるように、2月の発表会に向けて頑張っていきたいと思っております。

2年3組 Sさん（郡山一中）

SS探究Ⅱ「シニアサポーターが教えてくれた新たな視点」

私たちの班は「美味しく健康に」というテーマで探究活動を行っています。昨年度は福島県健康水準が低いという問題に注目して研究しました。今年度は好きな物を食べて健康になるには？という新たな視点で研究を深め、食事と心身の健康のつながりについて考えています。

テーマを設定し活動を始めようという時に、どういった切り口で調べ活動を広げたら良いか悩むことが多くありました。テーマをよりユニークに、新しいものにと設定したのは良いものの、私達にはそれを広げていくことが難しかったからです。

しかしそれは、ある方々のアドバイスによって解決されました。そう、シニアサポーターの方々です。ある時、「こんな視点でやってみたら？」とアドバイスを頂いてから、スムーズに研究を進めることができました。自分たちだけでは見えなかった領域が見えた瞬間でした。今後は結果をまとめ、発表に向けて準備をしていきたいです。

シニアサポーターの方々には大学などで研究を経験された方ばかりで知識が豊富でとても力になりました。

2年1組 Hさん（大槻中）

SS探究Ⅱ「SS探究Ⅱについて」

今年度の探究活動で、私達の班は安高生の交通事故を減らすという目的の下で調査を進めました。

まず、信号の無い横断歩道が大変危険な場所であると考えました。私達は最初の実験で平日の朝の30分間、安積高校前の信号の無い横断歩道を渡ろうとする人がいる時に一時停止する車としない車の台数を数えました。しかしこの調査では、一時停止しない車が多い、という程度の結果しか得られず、調査が行き詰まってしまいました。そこでシニアサポーターの方にアドバイスをいただき、安高生の実際の交通事故の事例についても調べることにしました。

実際の事例を調べると、事故が多発している時間帯や状況がわかり、対策を練ることができました。朝は時間に余裕を持って家を出ること、夜はライトや明るい服で自分の存在をアピールすることが大切だと考えました。

先生やシニアサポーターの方に助けていただきながら、班のメンバーと協力して、研究を進めることができました。探究活動で得た学びを、今後の生活にも生かしていきたいです。

2年2組 Mさん（郡山三中）

海外研修

フランス班「『語り部』の活動を通して」

フランス班では今年度6月から、国際高校生放射線防護ワークショップへの参加のため、小名浜漁港や東京電力福島第一原子力発電所の関係者、経済産業省の木野正登氏などの、原子力発電所の事故に関する様々な有識者の方から講義を受けたり、現地を見学したりして福島の実状とこれからの関する知見を得ている。そして、得た知見を福島県内の高校生が「語り部」として県外へ発信していく福島県の「語り部事業」に参加することになった。1月から、東京学芸大学附属国際中等学校、京都女子中学・高校、滋賀県立彦根東高校、栃木県立大田原高校といった全国各地の中学生・高校生へ福島の現状に対するプレゼンテーションを実施し、ディスカッションにて相互理解を深めている。県外の中高生と交流して気づいたことがある。それは若い世代の震災や放射線に関する関心が薄れているということだ。ある生徒は「交流に参加している生徒は福島について興味があるが、学校単位で見ると関心を持つ生徒は少ない」と話していた。福島県の学生による「語り部事業」には、薄れつつある福島への関心呼び起こすという大きな意義があると感じる。今後も他県との交流を通じて福島の現状、そして復興を共に考える人々を増やしていきたい。

1年4組 Sさん（明健中）

ドイツ班「エッセン訪問が叶って」

去る12月中旬、私たちはドイツのエッセン市にあるGymnasium and der Wolfskuhleを訪問し、現地の学生の方々との交流を行いました。現地に滞在できたのは3日ほどでしたが、その分とても内容の濃い交流を行うことができました。私たちは多くの交流事業を行いました。その中でドイツと日本の双方のすばらしさ、欠点を見つけあうことができました。中でも興味深かったのは、校則についての考えです。安積高校は比較的校則が厳しくはない高校だと考えてきましたが、それでもドイツの生徒たちは「信じられない」という反応をしていました。彼らにとって、どの服を着ていくか、どんな髪の色、髪型で学校に行くか、それに加えて、どの教科を履修するかまで(ドイツでは教科選択の自由度が日本より高いです)すべて自分たちのチョイスで、選ぶ権利は自分たちにあると考えていました。自分の人生を自由に歩めるこの時代、私たちの身近なところにも、見直すべき点は潜んでいるのかもしれない。

2年2組 Uさん（須賀川二中）

今後のSSH関係の主な行事日程

2月25日(土) 安積高校SSH生徒研究発表会(1・2年全員)

3月17日(金) 教科横断テーマ学習(1・2年全員)

〃

少人数ゼミ⑥(環境・農業・国際貢献)